

「第24回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム」結果概要について

日時・ 場所	平成27年3月22日(日) 13:00~16:50 横浜シンポジア(産業貿易センタービル9階)
内 容	<p>1 開催趣旨</p> <ul style="list-style-type: none"> 水源環境保全・再生の取組の情報提供・発信等を行い、県民意見を幅広く収集するとともに、「第2期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」及び水源環境保全税についての県民周知を目的に実施する。 特に第2期5か年計画満了時には、施策の前半10年の節目を迎えることから、これまでの取組状況全体を紹介するとともに、参加者と意見交換するための県民フォーラムを開催する。 このため、最近2年間は「もり・みずカフェ」形式による開催が中心であったが、説明や意見交換を十分に行うことが可能なホール会場での開催とした。 <p>2 開催内容 (議場)</p> <ul style="list-style-type: none"> 開会あいさつ 県民会議田中座長、金子環境農政局長 基調講演 鈴木 雅一(東京大学大学院農学生命科学研究科教授) 実績・成果報告 水源環境保全課、自然環境保全センター パネルディスカッション <ul style="list-style-type: none"> 田中 充(法政大学社会学部長) ※コーディネーター 浅枝 隆(埼玉大学大学院理工学研究科教授) ※以下、パネリスト 内野 ミドリ(NPO法人かながわ森林インストラクターの会) 興梠 克久(筑波大学生命環境系森林資源社会学研究室准教授) 高橋 弘二(横須賀「水と環境」研究会代表) 中村 道也(NPO法人丹沢自然保護協会理事長) 会場参加型討論 上記参加者に加え、伊集 守直(横浜国立大学経済学部准教授)も登壇。 講評 県民会議田中座長 <p>(レプションスペース)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水源環境保全・再生に取り組む市民団体(7団体)の活動展示 「海の森・山の森事務局」「かながわ森林インストラクターの会」 「四季の森里山研究会」「湘南二宮・ふるさと炭焼き会」 「丹沢山地水土保持研究会」「ふれあい環境整備SSG」 「環境学習リーダー会」及び施策紹介のパネル展示 <p>3 主催者 水源環境保全・再生かながわ県民会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 施策調査専門委員会の有識者委員5名が、基調講演講師やパネリスト等として登壇し、フォーラムチームの公募委員7名が、受付や案内などの会場運営を担当した。

	<p>4 参加者数 155名／200名（最大収容者数） ※ アンケート回収数88枚（集計結果については別紙参照）</p> <p>5 開催効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基調講演や実績・成果報告、配布資料（「水源環境保全税による特別対策事業の点検結果報告書（平成25年度概要版）」「かながわ水源環境保全・再生 これまでの取組」等）により、水源環境保全・再生施策の内容やこれまでの取組状況などについて情報提供することができた。 ・ パネルディスカッションでは、水源環境保全・再生施策に対する現状認識や今後に向けた課題などについて、専門家や市民活動に携わる立場から多様な視点による議論が行われた。また、会場参加型討論では、事業内容等に関する質問や意見が多数寄せられ、それに対してパネリスト等がコメントする形式で意見交換が行われた。 ・ レセプションスペースにおいては、市民事業支援補助金交付団体（7団体）が活動展示を行い、各地域での県民主体の水源環境保全・再生の取組の様子を紹介するとともに来場者との交流を図った。
特記事項	

※ 次頁以降に当日写真及びアンケート集計結果を掲載



※敬称略

13:00~13:10 開会～主催者挨拶～事業実施者挨拶



13:10~13:40 基調講演「かながわの水源とその保全」





※敬称略

13:40~14:25 実績・成果報告「水源環境保全・再生の取組みのこれまで」

水源環境保全・再生の取組みの全体像

- ◆「水源環境保全・再生施策大綱」の事業
砂防対策や不法投棄対策など60事業（一般財源）
- ◆特別対策事業
（水源環境保全税充当）
- ◇基本的な考え方
対象事業は、水源環境保全・再生に直接的な効果が見込まれる取組とする
- ◇事業構成
・森林の保全・再生
・河川の保全・再生
・地下水の保全・再生
・水源環境への負荷軽減
・水源環境保全・再生を支える取組

環境農政局 水・緑部 水源環境保全課長 桑野 幹喜

「水源環境保全・再生施策の取組実績」

水源林対策事業とモニタリング

水源林の保全・再生の取組による事業効果

自然環境保全センター研究企画部長 山根 正伸

「森林の保全・再生対策の効果」

14:40~15:50 パネルディスカッション「かながわの水源環境保全・再生はどこまで進んだのか」

パネルディスカッション
かながわの水源環境保全・再生は
どこまで進んだのか

みんなで支える かながわの森と水

コーディネーター 田中 隆

浅枝 隆 内野ミドリ 興 柁 克 高橋 弘 中村 道

「水産の食づくり」実行委員会

確保 源対策 山林整備

2008



※敬称略

14:40~15:50 パネルディスカッション



コーディネーター
法政大学社会学部長、政策科学研究科教授
田中 健



埼玉大学大学院工学部研究科教授
浅枝 隆



NPO 法人かながわ森林インストラクターの会
内野 ミドリ



筑波大学生命環境系森林資源社会学研究室准教授
興相 克久



環境財団「水と環境」研究会代表
高橋 弘二



NPO 法人みず沢自然保護協会理事長
中野 達也



※敬称略



15:50~16:45 会場参加型討論 ~ 講評





レセプションスペース／受付風景



レセプションスペース／市民団体等展示



海の森・山の森事務局



かながわ森林インストラクターの会



四季の森里山研究会



湘南二宮・ふさと炭焼き会



丹沢山地水士保全研究会



ふれあい環境整備SSG



環境学習リーダー会



施策パネル展示



施策パネル展示



資料コーナー

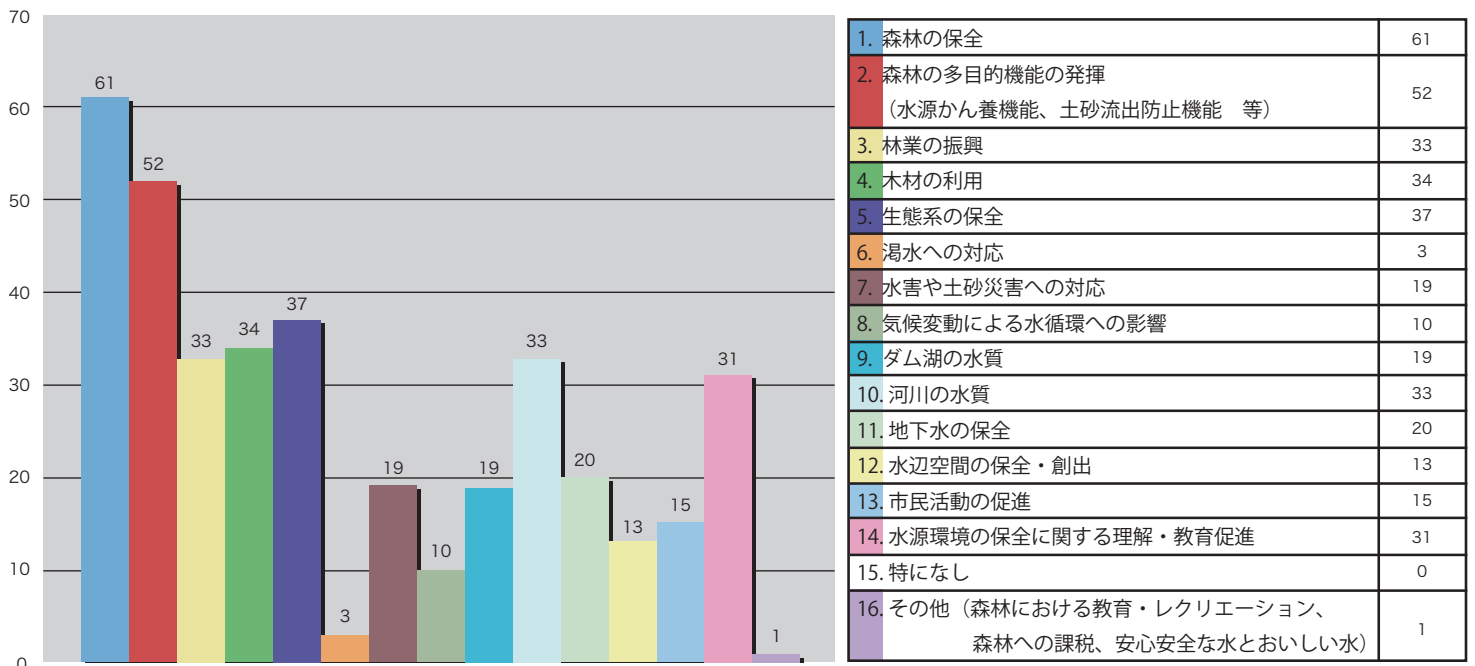


資料コーナー



資料コーナー

Q1 水源環境保全・再生に関わる問題について、関心があるものは何ですか。（複数回答可）

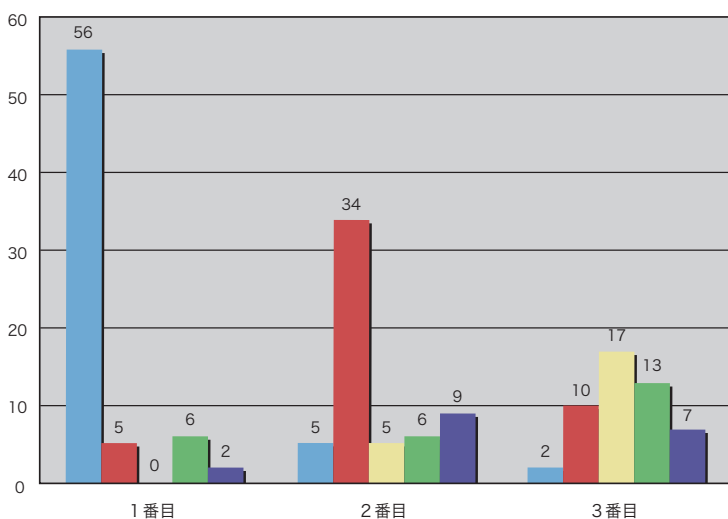


Q2 神奈川県これまでの水源環境保全・再生の取組みについて、効果があったと思うものは何ですか。

また、今後力を入れて取り組む必要があると思うことは何ですか。

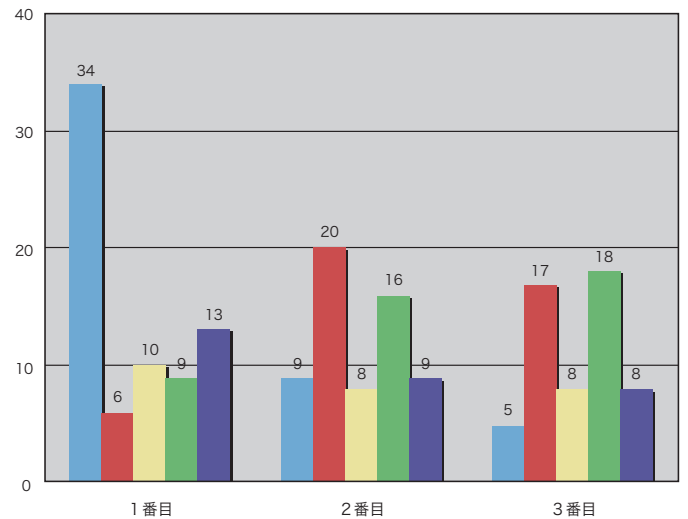
効果があったと思う順、取り組む必要があると思う順に3つお答えください。

1. 森林の保全・再生（水源林整備、土壌保全等の基盤整備、生物多様性保全などの取組み）
2. 河川の保全・再生（生態系に配慮した水辺環境の整備、ダム湖の水質浄化などの取組み）
3. 地下水の保全・再生（地下水のかん養・水質保全などの取組み）
4. 水源環境への負担軽減（家庭や事業所等からの排水によるダム湖や河川の水質汚染の軽減などの取組み）
5. 相模川水系上流域対策の推進（相模川水系上流域（山梨県）における森林整備や生活排水の水質浄化などの取組み）



効果があったと思うもの

	1番目	2番目	3番目
1	56	5	2
2	5	34	10
3	0	5	17
4	6	6	13
5	2	9	7

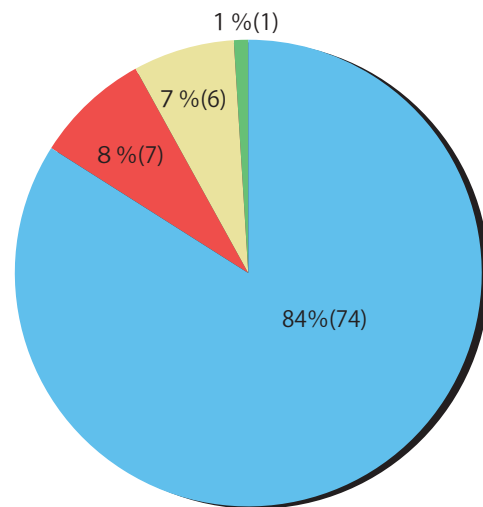


今後取り組む必要があるもの

	1番目	2番目	3番目
1	34	9	5
2	6	20	17
3	10	8	8
4	9	16	18
5	13	9	8

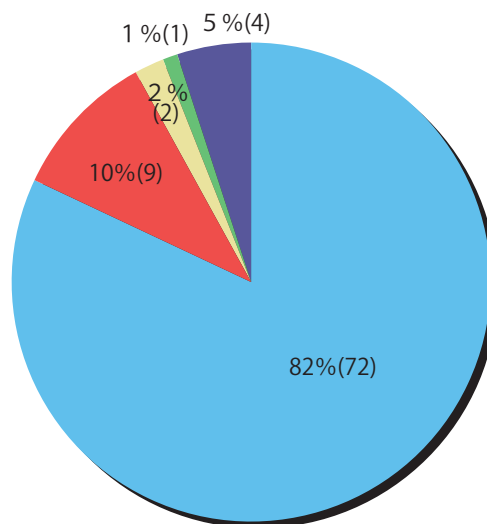
Q3 神奈川県では、平成 19 年度から個人県民税の超過課税（水源環境保全税：納税者一人当たり年額約 890 円）を県民の皆様にご負担いただき、これを財源に水源環境の保全・再生に取り組んでいます。このことについて、ご存じでしたか。

1. 知っていた	74
2. 税金の名前はきいたことがあるが、詳しいことは知らなかった	7
3. 知らなかった（今回のフォーラムで初めて知った）	6
未回答	1



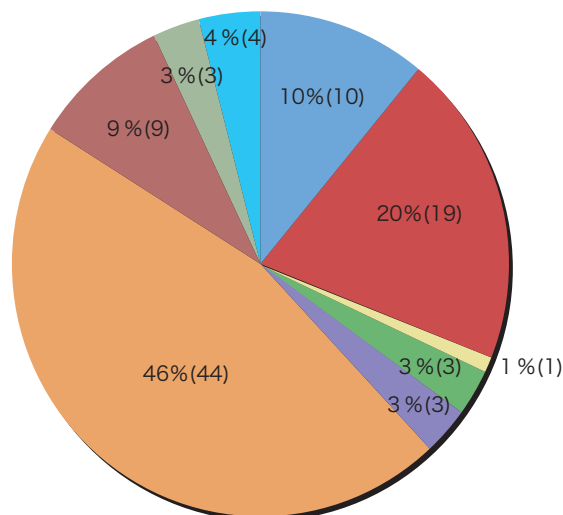
Q4 水源環境保全税を活用した水源環境保全・再生の取組みについて、重要だと思いますか。

1. 重要	72
2. どちらかといえば重要	9
3. どちらかといえば重要ではない	2
4. 重要ではない	1
5. わからない	0
未回答	4



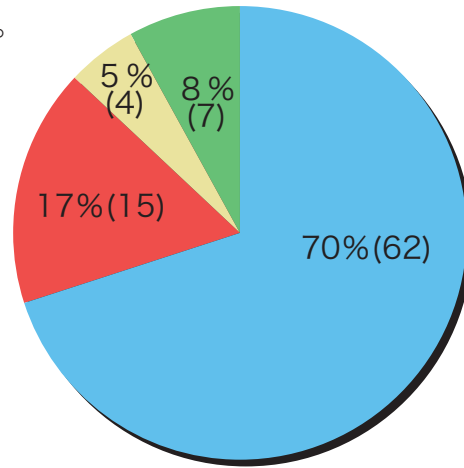
Q5 今回の県民フォーラムを何でお知りになりましたか。

1. 県のたより	10
2. チラシ	19
3. 新聞記事	1
4. 県のホームページ	3
5. 県のメールマガジン	3
6. 所属する団体を通じて	44
7. 友人・知人から	9
8. その他（桂川、相模川地域協議会） （東京都市大学、中川でのチラシ）（未記入）	3
未回答	4



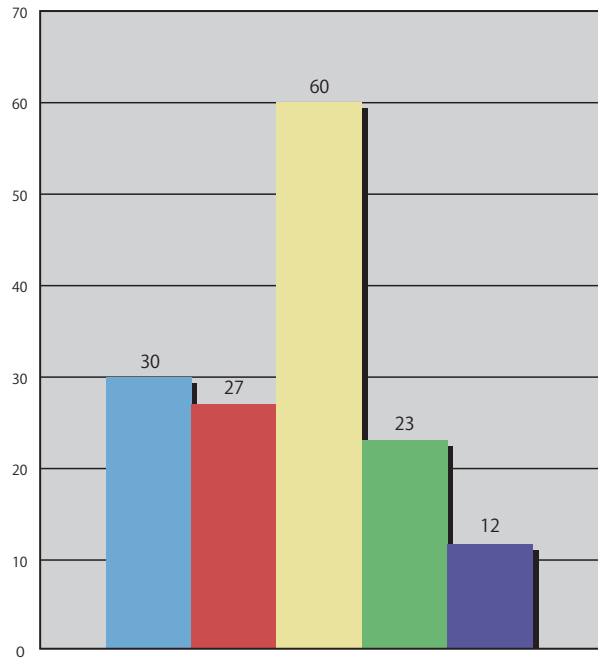
Q6 今回の県民フォーラムはいかがでしたか。

1.良かった	62
2.ふつう	15
3.改善が必要	4
未回答	7



Q7 今回の県民フォーラムで良かった内容がありましたか。(複数回答可)

1.基調講演	30
2.県の取組み紹介	27
3.パネルディスカッション	60
4.会場参加型討論	23
未回答	12





アンケート用紙

表

裏

<p style="text-align: center;">第24回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム みんなで支えるかながわの森と水 ～水源環境保全税による取組みの検証～ アンケート</p> <p>本日は、お忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。今後の取組みの参考とさせていただきますので、お手数ですが、以下のアンケートにご協力をお願いいたします。該当する番号に○をつけてください。</p> <p>ご自身のことについて教えてください。</p> <p>居住地 1. 県内 (市 町 村) 2. 県外 (都 道 府 県)</p> <p>性別 1. 男性 2. 女性</p> <p>年齢 1. ～10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代 8. 80代～</p> <p>Q1 水源環境保全・再生に関わる問題について、関心があるものは何ですか。(複数回答可)</p> <p>1. 森林の保全 2. 森林の多面的機能の発揮(水源かん養機能、土砂流出防止機能等) 3. 林業の振興 4. 木材の利用 5. 生態系の保全 6. 渇水への対応 7. 水害や土砂災害への対応 8. 気候変動による水循環への影響 9. ダム湖の水質 10. 河川の水質 11. 地下水の保全 12. 水辺空間の保全・創出 13. 市民活動の促進 14. 水源環境の保全に関する理解・教育促進 15. 特になし 16. その他 ()</p> <p>Q2 神奈川県これまでの水源環境保全・再生の取組みについて、効果があったと思うものは何ですか。また、今後力を入れて取り組む必要があると思うことは何ですか。効果があったと思う順、取り組む必要があると思う順に3つお答えください。</p> <p>1. 森林の保全・再生(水源林整備、土壌保全等の基盤整備、生物多様性保全などの取組み) 2. 河川の保全・再生(生態系に配慮した水辺環境の整備、ダム湖の水質浄化などの取組み) 3. 地下水の保全・再生(地下水のかん養・水質保全などの取組み) 4. 水源環境への負荷軽減 (家庭や事業所等からの排水によるダム湖や河川の水質汚濁の軽減などの取組み) 5. 相模川水系上流域対策の推進 (相模川水系上流域(山梨県)における森林整備や生活排水の水質浄化などの取組み)</p> <p>それぞれ選択肢番号(1～5)をご記入ください。 効果があったと思うもの 1番目() 2番目() 3番目() 今後取り組む必要があるもの 1番目() 2番目() 3番目()</p> <p>Q3 神奈川県では、平成19年度から個人県民税の超過課税(水源環境保全税：納税者一人当たり年額約890円)を県民の皆様にご負担いただき、これを財源に水源環境の保全・再生に取り組んでいます。このことについて、ご存知でしたか。</p> <p>1. 知っていた 2. 税金の名前はきいたことがあるが、詳しいことは知らなかった 3. 知らなかった(今回の県民フォーラムで初めて知った)</p>	<p>Q4 水源環境保全税を活用した水源環境保全・再生の取組みについて、重要だと思いますか。</p> <p>1. 重要 2. どちらかといえば重要 3. どちらかといえば重要ではない 4. 重要ではない 5. わからない 理由 ()</p> <p>Q5 今回の県民フォーラムを何でお知りになりましたか。</p> <p>1. 県のたより 2. チラシ 3. 新聞記事 4. 県のホームページ 5. 県のメールマガジン 6. 所属する団体を通じて 7. 友人・知人から 8. その他 ()</p> <p>Q6 今回の県民フォーラムはいかがでしたか。</p> <p>1. 良かった 2. ふつう 3. 改善が必要 理由 ()</p> <p>Q7 今回の県民フォーラムで良かった内容はありましたか。(複数回答可)</p> <p>1. 基調講演 2. 県の取組み紹介 3. パネルディスカッション 4. 会場参加型討論</p> <p>Q8 水源環境保全・再生の取組みに関してご意見・ご感想等がありましたら、お聞かせください。(基調講演及びパネルディスカッションの感想や今後取り上げて欲しいテーマ、県民フォーラムの企画内容、運営について 等)</p> <p>なお、いただいたご意見・ご感想への回答を希望される場合は、「回答を希望する」の□(チェックボックス)にチェックをつけてください。回答は後日県水源環境保全課ホームページに掲載させていただきます。</p> <p><input type="checkbox"/> 回答を希望する</p> <p style="text-align: center;">ご協力ありがとうございました。ご記入後は受付に設置してある回収箱にご投函ください。</p>
---	--

アンケート回収結果

回収枚数：88 枚

回答者情報

【居住地】

県内 84 県外 4

内訳

県内：横浜市(24)、川崎市(6)、相模原市(6)、大和市(5)、藤沢市(5)、山北町(5)、小田原市(4)、平塚市(3)、秦野市(3)、海老名市(3)、伊勢原市(3)、鎌倉市(2)、湯河原町(2)、二宮町(2)、厚木市(1)、南足柄市(1)、座間市(1)、大磯町(1)、松田町(1)、相川町(1) 中井町(1) 寒川町(1)、清川村(1)、未回答(2)

県外：東京都(3)、山梨県(1)

【性別】

男性(70) 女性(15) 未回答(3)

【年齢】

～10代(0)、20代(8)、30代(6)、40代(16)、50代(17)、60代(18)、70代(19)、80代～(3)、未回答1

Q8 水源環境保全・再生の取組みに関してご意見・ご質問等がありましたら、お聞かせください。

※回答を希望する 5件

- ◎現活動者がどこの団体でも高齢化にあり、後継者育成が課題であるので各団体を県として PR 強化に努め頂きたい。
- ◎山梨県、静岡県との協力が必要であることから、各県との協働について、個別対応以外に国への働きかけ（県を越えての仕組みづくり）はどのようにお考えでしょうか？※河川流域保全法の制定など・・・
- ◎1.水源環境保全税を活用した事業のうち「森林の保全・再生」への取組は進んでいるとの印象を受けた。さらに事業を継続する必要があると思います。
 - 2.これに対し「水源環境への負担軽減」（特に合併処理浄化槽）の促進状況はまだ充分といえない状況との印象を受けました。
 - 3.これらの課題については水源環境保全税と一般財源を相互に有効に活用できる仕組みづくりが重要と思われます。
- ◎多額の税金を使ったわりに極小の効果しか得られていない。民間活力を全面に押し出さないと公務員による税金のムダ使いになる。山林の個人所有者が入り組んでいるので、間伐林は他人の土地を通らないと搬出が出来ない。
- ◎①今後営業メリットのない林業地については自然林に戻した方が保水性が向上するのではないのでしょうか？林業のスクラップ&ビルドが必要では？
 - ②私権の制限、放置民有地に対し、行政が介入することが今後必要では。（例、放置廃屋の撤去等の条例化）
植林地→自然林に戻す
 - ③民地の（山林）の寄附の促進又は営業していない山林の固定資産税を上げて寄附贈与することは可能か

※ 回答を希望しない 24件

- ◎県のどの部門の計画・実績評価の県民対象のシンポジウムが開催されているが、共通項として数字の羅列だけのまとめ方で、ポイントの解説がない。作成された資料も素人が読んでもおもしろくも何も感じられない。県民への県政への啓蒙を目的とするならもっと分かり易い解説が必須である。
- ◎税を活用した間伐の推進の他に、森林の保全・水質の保全を目的とした規則等はどのようなものがあるか。またそれは十分に機能しているか？
- ◎準備段階からご苦労さまでした。ありがとうございます。7年をまとめられ良かったです。よく分かりました。
- ◎木材生産を推進したい方々が木材生産と自然環境保全は相反する面をどのように対応するかの考えはあるのか疑問に感じました
- ◎木も利用できるなら、もっとシカのような命を奪ってしまうことへの利用を考えてほしい。
- ◎税を使う優先順位を考えて下さい
- ◎河川ゴミ問題の対策事業にも水源税を充てるべき。
- ◎担い手養成は県と国(みどりの雇用創出)とを兼ねて評価との回答でしたが、県としてはトータルで、どれほど目標(数値)を立てているのか、県内の手入りが完了するのか教えていただきたい。
- ◎私たち、大人が真摯に取りくんでいく事は、もっとも大事な事であると思いますが、やはり子供たちに次世代教育としての担い手対策は重要ではないかと思いました。また、パネリストの方々の話の中で、税の公平性を考えると疑問も出る所ですが、考え方や感じ方を柔らかくする事も大事ではないかとも思いました。

- ◎税金を払っているのは理解しているが、利用状況、効果についてもっと市民に PR しても良いのではないかと。方法を検討してほしい。水源ボランティアももっと PR すれば参加者も希望者も多く出るのではないかと。多分知らない人が多いと思います。元気なシニア世代を活用して下さい。
- ◎フォーラムの開催の告知について。今現在活動をされている方は多く出席されているようですが、興味はあるけれど情報が入ってくる団体に所属されていない方などへの告知はどうなのか。一般の方もですが、県職員になるかと考えている方など、県主催で行われた他のイベントなどでの告知も力を入れていくべきではないでしょうか。
- ◎間伐材の利用法の促進法を知りたい。
- ◎間伐材の有効利用の一つにバイオマス(発電外の)利用の枠を作れないか
- ◎司会(田中さん)が中村さんに甘い。
- ◎間伐・鹿狩りをすることで下草が増し、水源環境に良い影響は分かりました。間伐材、鹿の利用ルートを作ればさらに活動が進むのではないかと。間伐利用度・搬出見合うか。
- ◎1.水源環境保全再生事業の効果としての沿岸漁業資源の回復などは検証可能でしょうか？いわゆる魚つき林
2.目的税にすべきものか？補助・交付先のあるべき姿
- ◎水源環境保全・再生の取組みとは県の使う水資源の保全と考えてよいのか。それとも県内の河川環境保全も含むのか。水資源の保全と考えるなら山梨県側の植林・下水道整備を重点的に行うべきではないか。こういう機会を設けていただけてよかったです。林業振興はもっと方法を考えるべきである(里山資本主義等)
- ◎間伐材の活用に関連して。娘夫婦は一昨年、木を活用した家を鎌倉市内に新築した時に、暖房として「木を燃やすストーブ」を選択した。しかし、周囲の目を気にして、昼間は使用していない。(苦情を受けたわけではない。理由は”におい”)一般の方の理解(再生可能エネルギー、林業の活性化・拡大→気候変動の緩和等)を深める活動も必要ではないか。木材＝森林の重要性を小学生から気づかせる。林業の活性化は市場を作ることが不可欠
- ◎神奈川県を取り組みは他に類をみない先進的な内容であるが財源の少ない地方の税対策の活用の仕方等、参考にすべきところがあるのではないかと。と思う。
- ◎今回のシンポジウムの目的がわからない。参加者はカコの関係会議・委員などが多いようでした。
- ◎水は食とのつながりが大きいと思う。本件の活動を食にからめて PR するのも意識の高揚になるのか・・・
- ◎桂川清流センターでの取り組みを否定するつもりはないが、合併処理浄化槽の設置の県外助成の方が合理的で効果があると思う。もちろん山梨県の施策への組み込みが必要だと思うが、がんばって欲しい。
- ◎(参加型討論について)最後は中村パネリストの持論を展開する「場」になってしまった一面がありましたので参加者が強い印象を受けると思いますので注意が必要だと感じました。
- ◎パネルディスカッションはパネリスト間の意見交換が欲しかった。「かながわの水源環境保全・再生はどこまで進んだか」に沿ってもう一歩ふみ込んだテーマがあつてないと思う。準備ご苦労さまでした。

会場で回収した質問・意見

○アオコについて

- ・毒性について、どのような害があるのか。
- ・化学的な処理でないと減らすことができないのか。
- ・リンが堆積しているのではないか。
- ・アオコを無くすための将来的な見通し・対策は。

○水源林整備について、7年間でどのくらい進んだのか、改善があったのか、数値データで示してほしい。

○林業に関わる人材を育成する取組みが少ないのではないか。もっと財源をかけるべきだ。

○モニタリング結果の検証が大事である。

○特別対策事業 12 事業の進捗状況について、7年間で 100%を超えているものがいくつかあるが、何故か。

会場で発言があった質問・意見

○リンは昔は合成洗剤に入っていたもので、かつて琵琶湖で合成洗剤が問題となった。リンが相模湖に沈着しているのではないか。

○神奈川県内で本当に材として使えるものはどのくらいあるのか。

○水源環境保全・再生施策は、一般財源と水源税で実施しているが、どこまで一般財源でやるのか、切り分けが重要である。標準的な財政需要と、それを上回る課税をお願いする特別な財政需要というのはどう考えたらいいのか、教えていただきたい。

○年間にどのくらい間伐材が出て、どのくらい利用されているのか、定量的なものを聞きたい。また、材として使うだけでなく、バイオマスなどいろいろな利用方法がある。間伐材を利用するという分野としてどうあるべきかが無いために、利用が遅れているのではないか。

○市町村で実施している生態系に関する取組みや直接浄化に関する取組みは、一生懸命浄化する一方で生活排水を垂れ流しているなど、効果があるかわからない取組みをやっていた。市町村の取り組み方の見直しを望みたい。

○子供たちへの普及事業へも水源税を充ててほしい。実際の現場に近いところで体験ができるビジターセンターが廃止される実情がある。水源税を活用して、または民間の力を活用してもいいかもしれないが、子供たちへの普及啓発の機能を担うようなものが必要だと思うので、検討してほしい。

○広葉樹林の整備について 植生回復に至っていない。東丹沢周辺の森は行く度に表土流出があり、水源涵養機能が失われている。対策はどう考えているのか。